



かぎ掛岩

岩古谷城の伝説の一つに、元亀2年(1571)武田軍の攻撃を受け籠城し、20日を過ぎたころ食料が尽き苦戦の中で、平山村(現:平山区)に面した絶壁から長い綱をかけ先端の鉤によって兵糧を運びこんだことから、かぎ掛岩と言われるようになった。



菅沼満直の石碑と墓

現在の円覚稲荷のあるところが城主の館跡といわれ、敷地の奥に城主の墓がある。

円覚稲荷は岩古谷山麓の根古屋という地にある。文亀元年(1501)岩古谷山を開いた円覚行者の開創によると伝わる。古来より円覚様と親しまれ、霊験あらたかで、特に「失せ物顕現」に効あるという。

位置図



交通のご案内

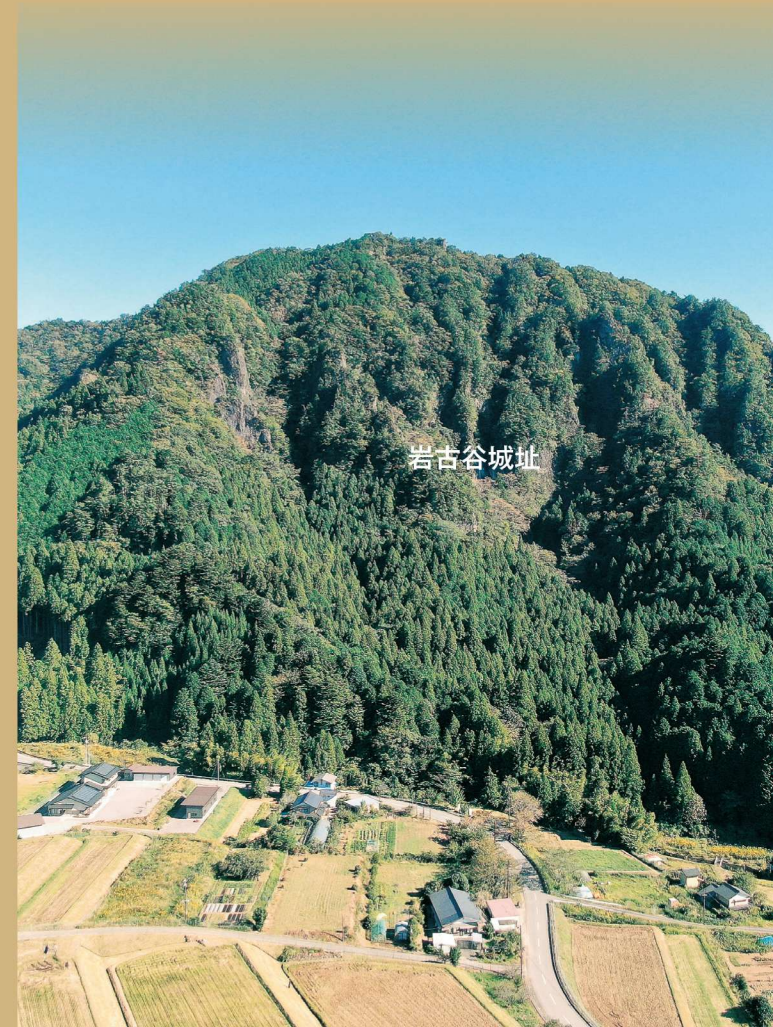


設楽の山城

岩古谷城

釘抜紋

(天険の要害白狐城)



設楽町観光協会

〒441-2302 愛知県北設楽郡設楽町清崎字中田 17-7

※2021年5月頃移転予定

〒441-2301 愛知県北設楽郡設楽町田口字辻前 14

TEL. 0536-62-1000 FAX. 0536-62-1332

<https://www.kankoshitara.jp>



岩古谷城址

縄張り図

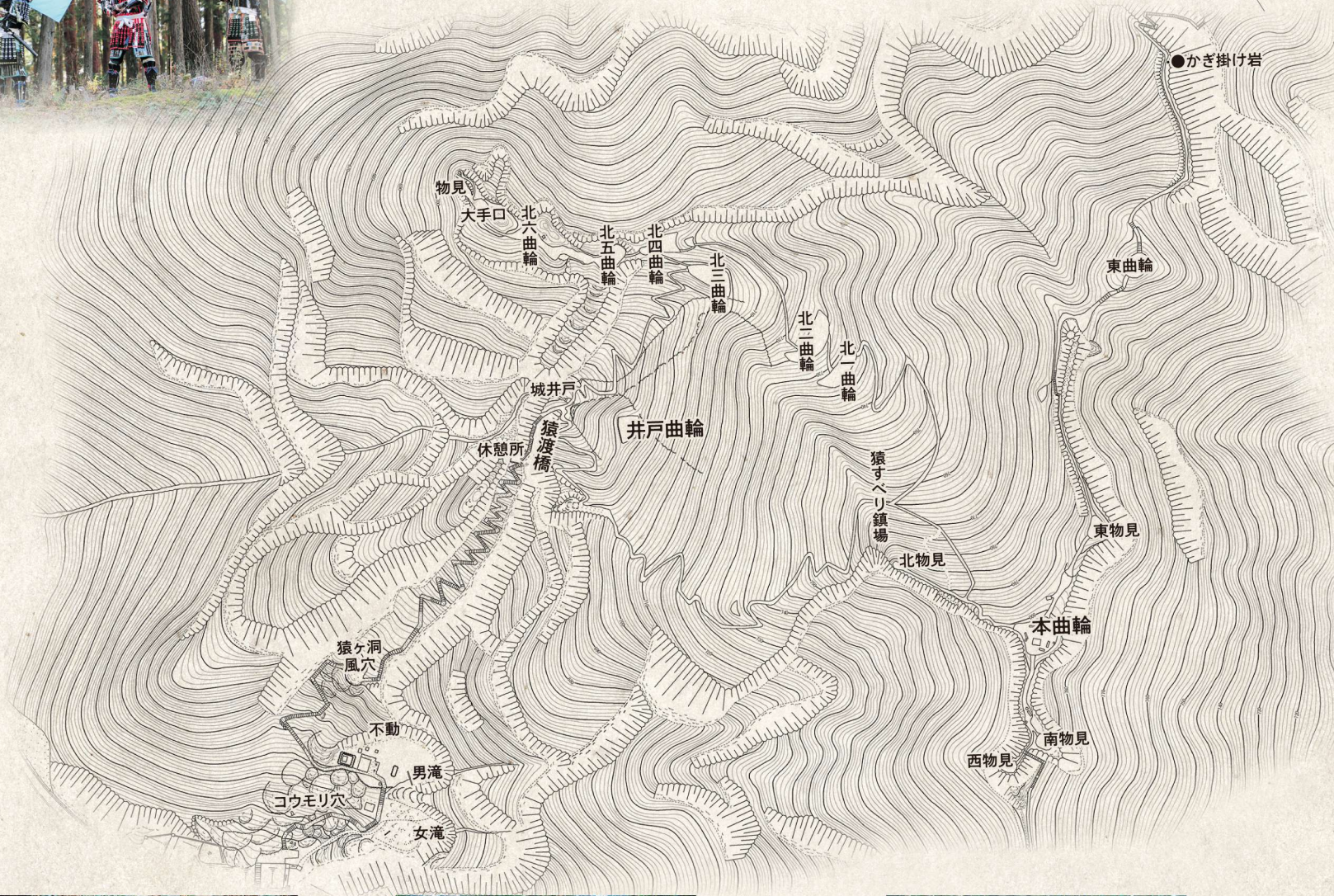


所在地 立地 城歴

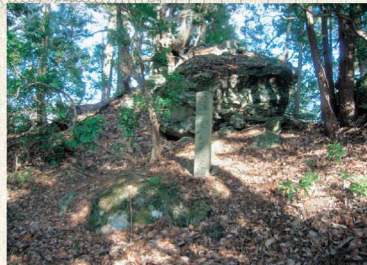
北設楽郡設楽町荒尾字岩古谷山一 の四番地 他

荒尾と和市集落の東にそびえる岩古谷山、標高八〇六メートルの岩山で、大滝や絶壁・奇岩に富んでいる。豊川と天竜水系を二分する分水嶺にあって、この地域では特に有名な山である。城は、提石トンネルから比高二〇〇〜三〇〇メートルの山腹に井戸曲輪をはじめ十ヶ所ほどの小曲輪が点在している。現在登山道が整備され、三方向から登ることができるが、城があった時代は西側の大手口からでないといわれ、登ることができなかった天険の要害に築かれている。

戦国時代、三河に勢力を誇った菅沼氏の一族、長篠菅沼氏の祖である菅沼満成が永享年中に築城したといわれる。その後、二代元成が長篠城を築き移った後、天正三年満直が城主の時、武田氏に属し合戦に敗れ廃城となった。



井戸跡



大手口



曲輪跡